

街を行く

第70回 函館 Hakodate

「歴史」と「自然」で二度おいしい

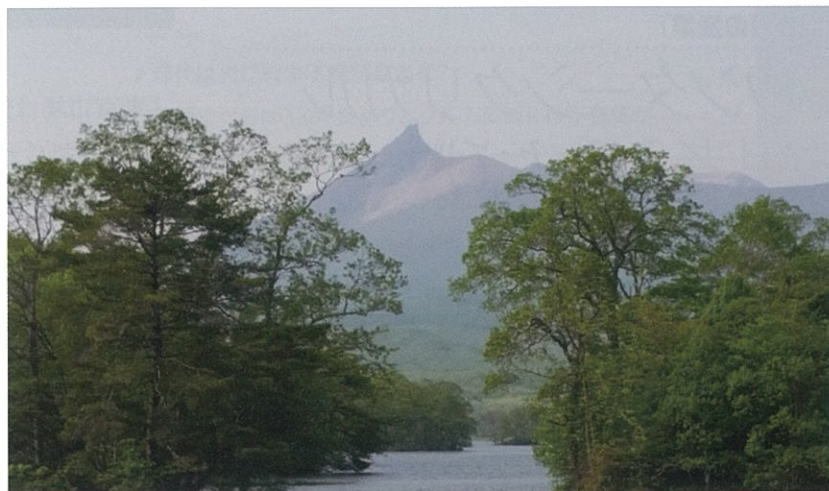
函館と聞くと、読者の多くは「五稜郭」が頭に浮かんでくると思います。

「では、五稜郭以外では？」と質問するとどうでしょう。もしかして、サブちゃんこと演歌の大御所、北島三郎の顔が思い浮かんできたのではないですか？ 函館市内には「北島三郎記念館」があり、卒業した高校すら観光スポットになっています。もはや人気者というよりも偉人と言えるかもしれません。

話を戻します。函館は、歴史や文化などの観光資源が豊富な地方都市です。その歴史を紐解くと、江戸後期の幕末近く、函館港は幕府と外国との通商拠点でした。その名残か街並みは、横浜や神戸にいるかのような外人居留地的雰囲気を醸し出しています。ふるい教会や西欧風建物はとてもオシャレで、当時カルチャーの先端にいたことが容易に想像できます。

名物の坂も街のオシャレさを演出しています。来街者はさながらサンフランシスコやシアトルへ来たような気分になるでしょう。反面、地域住民には厄介なだけです。上り下りが大変だからです。お年寄りにはなおさら辛い坂だと思います。

歴史的人物では、戊辰戦争最後の舞台「函館戦争」（五稜郭の戦い）を共に戦った榎本武揚や土方歳三が有名。特に土方はルックスの良さから歴女（歴史好きの女性）たちに抜群の人気を誇りまさに観光の目玉。函館にとっては、歴史のヒーローだけでなく地元経済に貢献する偉人と言えるでしょう。その他では、歌人・詩人の石川啄木が



数年間住んでおり数多くの歌を残しています。

以上のことから函館は、歴史的文化や人、地形、グルメなど、観光資源が豊かな地方都市とも言えるでしょう。

地方都市が生き残れる条件に、「企業城下町」か「観光都市」のどちらか、または両方になれるかにかかっていると言われます。函館は後者です。歴史文化があり海産物が美味しく（海の幸は最高でしたが、駅前で食べた塩ラーメンも絶品）、倉庫群も趣きがあります。でも似たような街は他にもあり、そこはネックです。もしも差別化が図りたいなら市の周囲の大自然をアピールしたらいかがでしょうか？

明治維新後に開拓された北海道でも、歴史あるのは函館だけ。観光資源だらけの道内で、PR要素に富むのは非常に有利です。地理的なハンディ（気軽な旅行先とは考えにくい）から考えてみると、歴史探訪&自然体験というダブルの魅力は函館を訪れるための良い動機づけとなると思うのですが。



観光客に嬉しく地元民に辛い函館名物の「坂道」と「大沼公園」

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。